

ならエコファーマー通信

奈良県エコファーマー連絡会

第10号

「エコファーマー体験ツアー」in吉野地域を開催しました!



上:開会挨拶
右:梨子本果樹園りんご試食

平成23年11月26日(土)、下市町・大淀町を会場に消費者交流会を開催、23名の消費者にご参加いただきました。

菊井果樹園のログハウスに集合、開会挨拶、エコファーマー制度についての説明の後、出席エコファーマーが取組のPRを行いました。果樹園見学に先立ち、梨子本さんのりんごを試食しながら奈良県産りんごの特徴について説明いただきました。



菊井果樹園 訪問

続いて、エコファーマー農園ツアーとして、菊井新昭さんの柿園を訪問、自家製たい肥を使用した柿の栽培概要について説明後、柿の収穫体験を行いました。また、干し柿の加工施設も見学させていただきました。

次に、梨子本巨希さんのりんご園を訪問、環境に配慮したりんご栽培の概要や食べ頃のりんごの見分け方について説明いただき、収穫体験を行いました。

紅葉が美しい果樹産地の中で、参加者には収穫体験や試食、果物の直売を通じて、楽しみながらエコファーマーの農業に親しんでいただくことができました。参加者は、菊井さんと梨子本さんの農業に対するこだわりや熱意に共感されていました。

今後も、各地域での開催を計画していますので、交流会の開催に協力いただける方は、事務局までご連絡ください。



梨子本果樹園
訪問

参加者の声 (アンケートから)

- りんごの収穫体験は初めてで感動しました。とてもいい企画でうれしかったです。エコファーマーの苦勞がわかりました。これからも安全・安心を求めてがんばってください。
- 奈良県にも「こころざし」が高い人がいらっやうれしいです。自分でも小さな畑を作っていますが、菊井さんのたい肥を使用します。がんばれ!!
- 貴重な体験談等を説明くださり勉強になりました。

環境保全型農業推進研修会を開催しました

平成24年2月29日(水)、橿原市の農業交流館にて、環境保全型農業推進研修会を開催しました。エコファーマーをはじめ、環境保全型農業に関心のある農業者、市町村、JA、県関係機関等の約90名に参加いただき盛会となりました。



基調講演 講師 上野秀人准教授

はじめに、愛媛大学農学部の上野秀人准教授より「緑肥作物等の特性と環境保全型農業における利活用」と題して講演いただきました。

奈良県では、水稻栽培における地力レンゲ、野菜栽培におけるエンバク等イネ科作物を中心に緑肥が導入されています。これらをはじめとする緑肥作物の特徴とすき込みによる土壌物理性・化学性・生物性の向上や雑草抑制、環境保全など様々な効果について、研究成果・現地事例を交えながら具体的にご説明いただきました。

次に、県農業総合センター病虫害防除チーム井村岳男主任研究員より「奈良県の果菜類における天敵利用の取り組み」と題して、研究報告がありました。露地栽培における土着天敵の保護と植生管理による天敵の増殖・温存、施設栽培における天敵製剤の利用につい



会場の様子

て研究結果に基づき技術導入の際の留意点を説明いただきました。

緑肥は、カバークロップ(間作中の土壌表面保護)や草生栽培(緑肥と主作物を同時に栽培する)等の活用法も開発されており、土壌への炭素(CO₂)貯留による地球温暖化防止効果が期待されています。また、研究報告のあったマリーゴールド等の天敵温存作物の導入は生物多様性の保全に効果があり、これらの技術導入とあわせて化学肥料・化学合成農薬を5割以上低減する取組は「環境保全型農業直接支援対策」の支援対象となっています。(次のページ参照)

当日欠席された方で、研修会の資料を希望される場合は、事務局までご連絡下さい。



研究報告 農業総合センター井村岳男主任研究員

「エコファーマーマーク」使用の猶予期間が終了します

これまでのご案内しましたとおり、「エコファーマーマーク」は平成23年3月末をもって使用が停止されました。

平成24年3月末までは、包装資材やシールの在庫を勘案して猶予期間として使用できましたが、平成24年4月以降は使用できなくなりますのでご注意下さい。

なお、持続農業法に基づくエコファーマーの認定制度は引き続き継続され、「エコファーマー」という言葉はこれまで通り使用いただけます。



エコファーマー技術交流会(葉菜類)を開催しました

平成24年1月10日(火)、宇陀市榛原三宮寺の県高原農業振興センターにおいて、葉菜類をテーマにしたエコファーマー技術交流会を開催、55名の葉菜類を生産しているエコファーマーや研修生に参加いただきました。

高原農業振興センター安川主任研究員より、葉菜類を中心とした様々な研究成果について説明、普及技術課の峯主査から現地実証・導入の状況の報告を受けました。講義後は、研究ほ場を見学しながら活発な質疑応答や意見交換が行われました。



開会挨拶

研究概要説明
安川主任研究員



大和まな 研究ほ場

スーパーセル苗
研究ハウス

施策
情報



平成24年度 環境保全型農業直接支援対策

地球温暖化防止や生物多様性保全に向けて、農業分野においても積極的な貢献が期待されています。このため、平成23年度から環境保全効果の高い営農活動に取り組む農業者に対して支援を行う「環境保全型農業直接支援対策」がスタートしました。

支援の対象となる取組は、(1)化学肥料と化学合成農薬の原則5割以上低減と組み合わせで行う①カバークロープ、②リビングマルチ、③草生栽培、④冬期湛水管理の取組と、(2)有機農

業の取組です。なお、平成24年度より、奈良県の地域特認取組として、(3)化学肥料と化学合成農薬の原則5割以上低減と組み合わせで行う①交信攪乱剤(性フェロモン剤)の導入(対象作物:梨・柿)、②インセクタープラント(バンカープラント)の導入(対象作物:露地ナス)が新たに支援対象メニューとして加わりました。

本対策の詳しい内容や要件等については、各農林振興事務所又は市町村におたずねいただくか、下記ホームページをご覧ください。

支援概要 ※詳しい要件等は別途ご確認ください

○支援対象者

次の(1)及び(2)の要件を満たす販売を目的として生産を行う農業者、集落営農等農業者グループ
(1)原則としてエコファーマー認定を受けていること
(2)農業環境規範に基づく点検を行っていること

○支援の水準

8,000円/10a(国と地方の合計)
(※全国の申請額が国の予算を上回った場合、減額されることがあります。)

○支援対象農地

農業振興地域内または生産緑地地区内の農地

※関連ホームページ

[対策全般に関すること] 農林水産省HP http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyho/hozen_type/index.html
[地域特認取組に関すること] 奈良県農業水産振興課HP http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-1668.htm

○支援の対象となる取組 (いずれかの取組で可)

(1)化学肥料と化学合成農薬の原則5割以上低減とセットで行う①～④のいずれかの取組
①カバークロープ ②リビングマルチ
③草生栽培 ④冬期湛水管理

(2)有機農業の取組

(3)地域特認取組(H24年度新規・奈良県限定)
化学肥料と化学合成農薬の原則5割以上低減とセットで行う①・②のいずれかの取組
①総合的病害虫・雑草管理(IPM)と組み合わせた交信攪乱剤の導入(梨・柿)
②インセクタープラント(バンカープランツ)の導入(露地ナス)

※各対象取組には要件が定められています

TOPICS

第17回環境保全型農業推進
コンクール

弁財天環境保全会 奨励賞受賞!

環境保全型農業において、経営や技術の改善に取り組み地域社会の発展に貢献している農業者・団体を表彰する標記コンクールにおいて、奈良県より「弁財天環境保全会」(代表中川雅由氏、広陵町)が奨励賞を受賞されました。

農地・水・環境保全向上対策への参画を機に、集落ぐるみで取り組まれている特別栽培米の生産活動や環境保全・農地活用等の実践が評価されたものです。弁財天環境保全会の受賞概要や本コンクールの結果は、全国環境保全型農業推進会議のホームページをご覧ください。
(<http://www.ecofarm-net.jp/04contest/index.html>)

エコファーマー
認定書交付式
(平成20年)病害虫発生
状況の確認

エコファーマーの認定期限にご注意!

平成24年度(平成24年4月～平成25年3月末)は、**認定番号3・4・14～68号(2回目の認定期間が終了)、487～603号**の方が、エコファーマーの目標年度(5年目)をむかえられます。認定期間は認定した日から5年間となり、認定期限はそれぞれの方で異なりますので、ご自身の認定書をご確認ください。

認定終了時には、実施状況報告書の提出が必要です。また、計画の更新(再認定)には、土壌診断を行い、新たな計画策定が必要ですので、お早めに各農林振興事務所におたずねください。

「エコファーマー全国交流会in埼玉」が開催されました

平成24年1月12～13日、埼玉県を会場に「エコファーマー全国交流会」が開催されました。この交流会は、全国エコファーマーネットワーク主催により、全国各地のエコファーマーが先進的な知識を学び、連携・交流を図るもので、約150名が参加しました。

はじめに、農林水産省より「農地の除染及び農作物への吸収抑制対策」について対策・調査の中間報告があり、東北からの参加者を中心に質問・要望があげられました。続いて、全国エコファーマーネットワークの活動紹介の後、土づくりをテーマとした講演、取組事例発表が行われました。2日目は、2班に分かれ、小川町の有機農業を核とした町づくり、深谷市の(農)埼玉産直センター等を見学しました。

全国エコファーマーネットワークは、現在会員約4,400名で全国各地で様々な活動を行っています。入会を希望される方、ご興味のある方は、全国エコファーマーネットワークのホームページ(<http://www.eco-farmer.net>)をご覧ください。事務局の(財)日本土壌協会(電話03-3292-7281)までおたずねください。

1日目
ネットワークフォーラム2日目 現地研究会
(小川町コース金子農園)編集
後記

今回は、紙面の都合上「地域でがんばる!エコファーマー」コーナーは休載します。本誌へのご意見や記事の投稿、ご提案がありましたら下記までお願いします。

発行 奈良県エコファーマー連絡会

(事務局 奈良県農業水産振興課環境係)

〒630-8501 奈良県奈良市登大路町30 TEL0742-27-7442 FAX0742-22-9521

平成24年3月発行